

森のキャンパスから

創刊準備号

発行日 2012年10月1日

夏期シーズンが無事終了しました。ありがとうございました。

この通信は、千刈キャンプと、この森を愛する皆さんとを結ぶ接点となることを願って生まれました。主に次のような方々へお届けしています。

- ご利用団体
- 関西学院で学ぶ生徒・学生や保護者
- 千刈キャンプのサポーター
- 関西学院の各部課
- 千刈キャンプスタッフと名刺交換させていただいた方々

目次:

- 自由に過ごした中学生キャンプ **2**
- KGオールスターキャンプ **2**
- 今年のトレンド **3**
- 千刈リーダーズの活躍 **3**
- 秋冬こそ千刈へ **4**

暑かった**2012**年の夏も無事終了しました。7月中旬に始まった幼稚園のキャンプを皮切りに、教会キャンプや青少年育成団体などが行うたくさんのキャンプが千刈の森で展開されました。心配されていた熱中症をはじめ、大きな事故は幸いにして起こらず夏休みを終えることが出来ました。

千刈キャンプが選ばれる理由は様々ですが、最も多い答えの一つが「リーダーがいるから」です。今年のアンケートからリーダーに関するコメントをいくつかを紹介します。

「今回も学生リーダーさんが親身になって本当によいキャンプが出来ました」「学生リーダーの懸命な奉仕にはいつも感謝しています」「子どもたちもリーダさんたちと関わることができて嬉しそうでした。このふれあいが何よりも大切なのかなと感じました」

もちろんお褒めの言葉だけでなく時にはお叱りのコメントもいただきますが、学生リーダーが夏ごとに成長していく様をキャンパーの方々にも気長に見守って頂いているようです。



野外自炊は真剣勝負(サマーキャンプ)



夏の定番、羽東川で川遊び(サマーキャンプ)

また、スムーズなキャンプ生活を黒子として支えるだけでなく、千刈キャンプが主催、共催するキャンプ事業も夏に開催しました。

恒例となっているサマーキャンプ(小学3年生～6年生**31**人参加、**2泊3日**)、KGオールスターキャンプ(高校生**59**人参加、**2泊3日**)に加え、今年は「森の生活」(中学生**12**人参加、**2泊3日**)を実施。いずれ大学生になってリーダーとして千刈に帰ってくるような流れになればと、密かに企んでいます。

また、大学生や青年対象にはTグループセッション、HCL(ヒューマン・コミュニケーション・ラボラトリー)**2012**を共催。学生だけでなく、青少年団体職員やスクールカウンセラーも参加し、自己理解やグループの関係性などについて学びました。

これからも「森のキャンパス」をめざし、進級進学そして就職しても千刈の森で交流や学びが深まる取り組みを増やしていきます。

過ごし方を自分たちで決める自由さが「森の生活」

千刈キャンプが生まれるきっかけの一つに、キャンププログラムが伝統となっている中学部の存在がありました。入学式直後のオリエンテーションキャンプが行われる場所として、この森は新入生当時の印象深い場となっています。

シニア世代になった中学部の卒業生が「キャビンやホールが懐かしくなって」とわざわざ見に来られるほどです。

残念ながら、オリエンテーションキャンプ以降は千刈キャンプに来る機会が今はあまりなく、多くの中学部生にとって、関学ライフが始まった場所、「メチャピー」を経験した



2晩ともテントなしの野営。ワイルドだぜえ

あのキャンプ場として記憶に残るものの、少しずつ遠い存在となっていきます。

また「せんがりサマーキャンプ」にずっと参加していた6年生キャンパーたちは春に小学校を卒業していきました。毎年キャンプに来てくれていた子どもたちの顔を思い出し、「中学生になっても、この森に来れるような機会があれば」と考えていたところ、「中学生のプログラムを千刈キャンプで主催するなら協力しますよ」という先生方のバックアップの声をいただきました。そこで、急遽、開催を決め、中学部生と千里国際中等部生をあわせて12人の男女中学生が集まりました。

全食野外自炊でテント泊。また事前にできあがったスケジュールはなく、翌日の過ごし方を夜の「たき火カフェ」でみんなで相談しながら決めるフリースタイルのキャンプ。地面に敷いたシートの上に寝袋だけで眠り、深夜に星空観察、早朝にはクワガタやカブトムシを捕まえたりなど、千刈の自然を満喫したようでした。

学校行事では出来ない過ごし方や楽しみ方を中学生に提案していくことは、今後も千刈キャンプとして続けていきたいと考えています。

高校生が集い・学び・楽しむキャンプ KGオールスターキャンプ

「関西学院にゆかりの深い高校生が集う場を千刈キャンプで開こう」というアイデアから、2010年夏に第1回が開催されました。今年度は関西学院(高等部および千里国際高等部)、啓明学院、帝塚山学院、三田学園そして清教学園から59人の高校生が集まりました。

各校の有志生徒からなる実行委員会が、教員と千刈キャンプからのサポートを受けながら、内容の企画から運営までをやり遂げるのがこのキャンプの特徴。ゲーム大会、キャンプファイアーや肝試しなどのお楽しみプログラムだけでなく、関西学院大学から先生を招き、大学レベルのレクチャーとディスカッションを行うなど真面目な時間もしっかりと組み込まれています。もちろん、先生方との打ち合わせなども高校生が直接行いました。

この夏は、岡本仁宏法学部教授と志甫啓国際学部准教授が講師として参加。マイケル・サンデル著(鬼澤忍訳)「これからの『正義』の話をしよう—いまを生き延びるための哲学—」を課題図書に、国際問題などについて密度の濃い学びと議論の時間が繰り広げられました。それはまさに

千刈キャンプ版「白熱教室」のよう。

また、関西学院大学に入学した過去のオールスターキャンプの参加者が学部と同級生に声をかけて、この夏に交流キャンプを千刈キャンプで開きました。キャンプが始まって3年。継続する成果が少しずつ見えてくるようになったことは、関わるものとしてうれしい限りです。



期待と緊張の開会式

今年度のトレンド ～ オリエンテーションキャンプが増えました ～

オリエンテーションキャンプは千刈キャンプが果たす重要な役割の一つです。キャンパスでの友人関係づくりなどの絶好の機会となっています。

大学としては入学前に有志対象に行われ、新入生とリーダー役の上級生合わせて約150人が毎年3月末に2泊3日のキャンプを実施します。その後は、4月から6月にかけて学科やゼミごとのオリエンテーションキャンプが千刈キャンプで盛んに行われています。

これまでは「常連」団体の利用が主だったところ、春学期に新入生オリエンテーションを目的とした社会学部新入生歓迎キャンプが始めて開催されました。

千刈キャンプも、社会学部に出向いて打ち合わせに参加し、企画の相談から交流プログラムの運営を一つ受け持つなど、実りあるキャンプにするべく、全面的に協力をしました。

「都会育ちが多く、千刈の大自然の中で思い切り遊べたこと良かった」、「何よりも学生同士の仲を深められた」など、1泊という短い時間であったが目的は達成できたと事務室は評価。また上級生スタッフたちの交流が進み、同時に企

画から実施までを体験することで成長したようでした。

いつものキャンパスを離れた自然の中での時間のために、使い古された言葉ですが「寝食を共にする」空間として千刈キャンプが西宮キャンパスの学部選ばれたことは、まだまだ低い認知度を向上させる方策を考える上でも貴重な機会でした。成果あるオリエンテーションキャンプのために、プログラムやサービスの中身などを充実させることが千刈の今後の課題です。



辻記念チャペルでのふりかえりの会

日々の活動がMastery for Serviceの実践 千刈リーダーズクラブ

夏場のリーダー活動を傍らで見守る有志の教職員をディレクターとよんでいます。千刈キャンプの現場を学生リーダーだけで完結させず、大人としての教職員がリーダーたちに関わる大切な役割です。そんなディレクターたちが現場で記す日々の記録から、リーダー活動を見守る印象的なコメントを拾い上げてみました。

「貴重な経験が出来るこのクラブ。上下で7年間の幅



ちめりやぐらを新設するリーダーたち

のある仲間と一緒に、普通は経験できない豊かな活動を通じて、リーダーとして人として成長してほしい」

「キャンパーのプログラム終了後、旧センター棟裏で火付けの練習をする。4人一組でも、悪戦苦闘。リーダーの技術力向上について、本腰を入れる必要がある。振り返りの際に失敗を恐れず、なんにでもチャレンジするよう勧める」

「エンジン快調という感じのする活動の様子だった。1、2年生たちがシーズンの終わりに来てきて、自信を持ってきている事を見せてもらえるのはとても頼もしい。今日の旗下げでも話をしたけれど、千刈で大きなこの夏の思い出をつくってこのシーズンを締めくくってほしい。キャンパーもリーダーも」

千刈リーダーズクラブは4学年あわせて23人が在籍しています(9月現在)。新入生は8人が加入し、様々なトレーニングを経て現場デビュー。そして厳しくも充実した夏シーズンと秋ワークキャンプを乗り越え、今では立派な戦力となってきました。一層の活躍が期待されます。

秋冬こそ千刈キャンプは楽しい

秋になり、気温も下がらずいぶんと日中も過ごしやすくなりました。実は、キャンプは秋こそが一番いいシーズンです。暑くなく、火を囲むのも心地よく、気になるムシは少ないし、使い方の自由度は夏以上。ゼミやクラブ、研修やレクリエーションなどで是非お越しください。年末までの空室状況や主な事業をお知らせします(詳細は千刈キャンプ事務室まで)

○ 土日・祝日の空室情報 (2012年9月現在利用可能な新キャビン数)

| | | |
|-----|---------------|----|
| 10月 | 20日(土)～21日(日) | 3棟 |
| | 27日(土)～28日(日) | 8棟 |
| 11月 | 3日(祝)～4日(日) | 5棟 |
| | 10日(土)～11日(日) | 6棟 |
| | 17日(土)～18日(日) | 8棟 |
| 12月 | 22日(土)～24日(休) | 8棟 |

秋こそキャンプ
たき火で深まるコミュニケーション



○ 年内の主な事業(2012年9月現在の予定)

| 事業名 | 日程 | 内容 |
|-------------|---------------------------|--|
| 千刈フェスティバル | 2012年10月14日(日) | 秋の千刈を楽しむディキャンプ。毎回食事が楽しみ。どなたでもどうぞ。 |
| オータムフェスティバル | 2012年11月24日(土) | 千刈リーダーOBOGのホームカミングデー。 |
| リトリート at 千刈 | 2012年12月 1日(土) ～ 2日(日) | 関西学院に連なる人々を対象にした1泊2日のリトリート。関西学院宗教活動委員会の主催。 |
| 冬のぼかぼかキャンプ | 2012年12月 9日(日) | 小学生対象のディキャンプ。寒さにまけずに一日たっぷりリーダーと遊びます。 |



ここも関学 千刈キャンプは森のキャンパスです

私たちが目指すのは「森のキャンパス」です。約8万㎡の里山の自然と約150人までの宿泊研修機能に加え、指導スタッフが常駐するなど、大学が保有する施設としては全国でもユニークな資源を持っているのが千刈キャンプの特色のひとつです。自然の中で時間に縛られない生活空間を共有することで、研究はもちろん、学生とのコミュニケーションも深まるでしょう。また、環境やリーダーシップなど実践的な教育活動の展開が可能です。学内だけでなく学外にも開かれた場として、教会・幼稚園・学校・生涯学習など一般の団体グループの方々にもご利用いただけます。皆様のご利用をお待ちしております。

関西学院千刈キャンプ 〒669-1507 兵庫県三田市香下1817-1

電話 079(563)5233 FAX 079(563)5235

Email: campsengari@kwansei.ac.jp

website http://www.kwansei.ac.jp/f_sengari/index.html

facebook <http://www.facebook.com/CampSengari>

つぶやき

先代事務長からバトンを引き継いで4年目。名作「Chip of Sengari」の後継紙をつくるかどうか、かなり躊躇。目標は月2回発行ならぬ年2回ぐらい?(益)